

# けんしゅうしましよ



## 教師力アップ研修～道徳研修会

## 自分の考えを先生にも聞いてほしい!

講師 木原 一彰 教諭

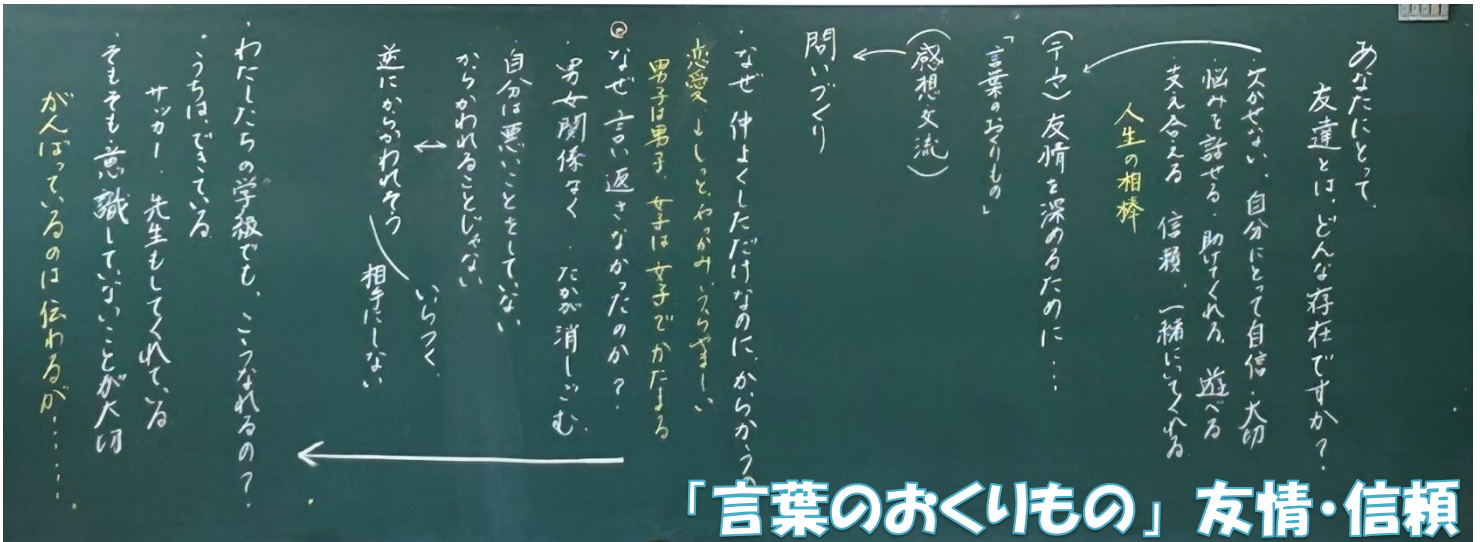
鳥取県大正小学校教諭

鳥取県道徳エキスパート教諭

教育出版 道徳教科書 著作者



交流することで、考えが広がる・深まる



## 「言葉のおくりもの」友情・信頼

### 木原先生より授業の説明～自分の学級で行ったときと絡めながら

#### ○教材について

「言葉のおくりもの」という教材は、昨年度までの学研の5年生の教科書に掲載。大まかな話の内容は同じであるが、ポイントとなる部分が違うところが多かった。例えば、最後の部分は東京書籍の場合、登場人物に影響を与える“すみ子”の情景描写が多く書かれており、そこから考えさせたいという東京書籍の編集者の意図を感じる。しかし、他の出版社での本教材を考慮したときに、「主人公は誰なのか。」という疑問、そして、終末の流れが自分の学級の現状と違うことに大きく悩まされ、混乱した。

#### ○ICTについて

いつもの授業では、教師としてやりとりをしながら授業を創っていくことをしたいと考えているが、中々自分の気持ちを言えない児童が多い学級のため、感想交流でも言葉が出てこない。そのような学級でICTを活用したときに、普段よりも感想など考えが多く出た。「普段そんなことまで考えているのね!」と思うほどであった。音声言語で表出するよりも、ICT上での表出の方が合っている。また、全ての流れが終わらない中、授業時間が終わってしまった際にも、児童から「先生、続けましょう。」という発言も出たほどだった。ということから考えると、感想交流等でICTを活用するのはありだと考える。でも、「効果的に活用」という観点では、学級の実態にもよる。今回の帯小の6年生だと、自分だったら感想交流でしか使わないだろう。それで十分だと感じた。今回は、逆に「これをやったら、時間が足りませんよ。」「ここまでは無理して使わなくてもよいのでは?」という話題提起のためのICTの使い方であった。

## ○問いづくり

自分の学級で行ったときに「なぜ男女って仲良くなれないんだろうね」そこから「どうすれば仲良くなれる？」と教師が言葉を紡ぎ、問いを編み出していった。こちらも学級の実態による。今回の帯小の6年生だと、「どんなこと思った？」から「この中で疑問に思ったことを書いた人いる？」という流れのように、感想交流に問いづくりもいれていく。それで十分だと感じた。だが、自分の学級では一発でそこに行くのは難しい。段階を追うことが大事だと考える。



## 参加者の質問から

### ★教材研究を授業に活用する方法

教科書を編集している立場から話すと、教材文は道徳ではあまり目立たせたくない。スーッと入って、スーッと考えて、スーッと溶けていくような教材が大切だと思っている。細かい部分の読み取りや教材文に注目させるような学習は国語で行いたいと考えている。

また、あらかじめどんな感想が出るか予想してはいなかった。ただ、感想で出てくる問いとしては「教材文よりの問い」になるとは予想していた。ここは気をつけたい。感想交流で「疑問に思ったことある？」となると、「教材文よりの問い」が出てくるのがほとんどである。自分や自分を取り巻く環境の視点での問いは出づらだろう。

### ★個々の問いから終末への向かい方

終末を教材研究の時点で決める。今回は「みんなが安心して安全に生活できる学級のために大切なことは？」このような問いだけは自分でしっかりもっておく(帯小で言う中心発問)。その中で子どもたちの思いで近いところから繋げていく。

## まとめとして

### ◎ICTの活用について

問題は「その活用が効果的であるかどうか。」主体的・対話的で深い学びを実現するツールとして道徳科でICTを活用することを考えたときに

- ①「感想交流」は教材についての認識の共有化を図る。
- ②「振り返り」は自分なりの納得解を時間をかけて紡ぐ

多様な価値観の存在を認めるために、なるべく多くの意見を可視化したいと考えたとき、ICTは効果的に活用できる一つのツールとなり得る。また自ら考え、他者と対話、協働するということを、私たちがどのような様相ととらえるかによってICTをどのような場で活用するか(しないか)は決まる。

### ◎問いづくりについて

「主体性の発揮」として問いづくりが語られることは多い。「問いを選べるのが子どもの主体」と説明されることもある。東京都小学校教諭の杉本遼先生によると・・・

- ①問いをつくるのは、子どもが意欲的に学習するための「ひとつの」方法
- ②「子どもが問いをつくる」ことで広がる授業の可能性(複数時間扱いなど)
- ③「子どもが問いをつくる」(言葉にする)ことと「子どもが問いをもつ」は似て異なる力
- ④道徳科では、問いをつくり、自己に問えることが大事(?)

今年度、道徳科の研究で試行錯誤している「問いづくり」を中心とした授業の在り方など、たくさんの学びが多い1日となりました。

